

れきはくのアシあと

11月9日(土)・10日(日)の2日間、「30周年 開館記念イベント」を開催しました。例年大好評の「はに坊のどんぐりマルシェ」も今年は2日間開催しました。出店者の方も例年より多く、「前日夕方の搬入」「1日目夕方の搬入」「2日目朝の搬入」という私は経験したことがないことで不安でしたが、そこはやはり出店慣れている出店者の皆様!!非常にスムーズにしていただけました。2日間で多くの方にご来館いただきました。そして例年心配している肝心の天気。昨年までは2年連続の雨天スタートでしたが、1日目は、なんと晴天!しかし2日目の午後から残念ながら雨。今年もやはり雨とは縁がありました。



歴博で取れた綿から糸つむぎ体験

また、今年はスペシャルゲストとして、みきさんとダークみきさんが歴博に遊びに来てくれました。やはり愛媛県を代表するキャラクターであるお二方。大変人気で写真撮影会も大盛況♪当館のマスコットキャラクターのはに坊ももっともって人気が出るように精進せねば!と改めて決意しました。

最後になりましたが、ご来館・ご参加いただいた皆様ありがとうございました。これからも歴博、そしてはに坊をよろしくお願いいたします!!



開館記念日限定ワークショップ

れきはく歴史文化講座のご案内

2025.1 - 2025.3

■特別展「宇和海のくらしと景観」関連ミニシンポジウム

南予の柑橘農業の歴史と文化

日 時:3月9日(日)13:30~15:00
講 師:宮本 春樹氏(予土歴史文化研究会)
 大本 敬久氏(愛媛大学特定准教授)
 福井 雅美氏(愛媛県農政課)
会 場:多目的ホール

■特別展「宇和海のくらしと景観」関連講座

安政南海地震による宇和海沿岸部の津波被害

日 時:3月15日(土)13:30~15:00
講 師:井上 淳(当館学芸課長)
会 場:研修室1・2

■源氏物語講座

紫式部の清少納言評 - 『紫式部日記』における女房たちの評判記録 -

日 時:3月22日(土)13:30~15:00
講 師:伊井 春樹氏(当館名誉館長)
会 場:研修室1・2

■歴史講座

テーマ展関連講座「一条氏と南予の城郭」

日 時:1月12日(日)13:30~15:00
講 師:松田 直則氏(高知県立歴史民俗資料館)
会 場:多目的ホール

■古文書講座

能島村上家の家譜を読む①

日 時:2月1日(土)13:30~15:00
講 師:松花 菜摘氏(村上海賊ミュージアム)
会 場:研修室1・2

能島村上家の家譜を読む②

日 時:3月8日(土)13:30~15:00
講 師:松花 菜摘氏(村上海賊ミュージアム)
会 場:研修室1・2

■考古講座

テーマ展関連講座「テーマ展の見どころ」

日 時:1月18日(土)13:30~15:00
講 師:富田 尚夫(当館学芸員)
会 場:研修室1・2

■体験講座

史跡めぐり「松山市道後地区の史跡・建築」バスツアー

日 時:2月15日(土)8:00~16:00(予定)
講 師:林 悠太郎氏(愛媛県教育委員会)
参加費:5,000~6,000円程度(予定)
【締切】1月17日(金)

創作体験「形がかわるフォトフレームづくり」

日 時:3月30日(日)13:30~15:00
講 師:藤田 晴樹氏(藤田建具店)
参加費:2,500円
【締切】2月28日(金)



受講時のお願い▶ 講座の写真撮影、録画・録音はご遠慮ください。
申込方法▶ 当館HPの講座申込フォーム・お電話からお申し込みください。
お問い合わせ▶ 企画普及グループ・歴史文化講座係
TEL(0894)62-6222 FAX(0894)62-6161

展示スケジュール

2024.12-2025.3

2024 12	テーマ展 「松山外環状道路空港線開通記念 松山外環状道路と遺跡の調査-松山平野西部の遺跡-」 2024年10月19日(土)~2025年3月23日(日)	常設展 えひめの歴史と文化 新常設展 密・空と海-内海清美展
2025 1	テーマ展 「愛媛の祭りと年中行事」 2024年10月19日(土)~2025年1月26日(日)	
2	テーマ展 「西南四国の中世社会と公家」 2024年12月17日(火)~2025年1月26日(日)	
3	テーマ展 「おひなさま」 2025年2月15日(土)~4月3日(木)	
	特別展 「宇和海のくらしと景観」 2025年2月15日(土)~4月6日(日)	
	▶おひなさまイベント 3月1日(土)・2日(日)	

ご利用案内

■開館時間 9:00~17:30(入館は17:00まで)
■休館日 月曜日 第1月曜日は開館、翌火曜日が休館。(下記カレンダーをご参照ください)
■観覧料

	区分	一般	団体(2割引)
常設展・ テーマ展	大人(高校生以上)	540円	440円
	小・中学生	無料	無料
	65歳以上	280円	230円
新常設展		観覧無料	

※特別展の観覧料はその都度定めます。 ※団体は20名以上です。
※未就学児は無料です。
※テーマ展をご覧いただくには、常設展観覧料が必要です。

Museum Calendar 2025.1-3

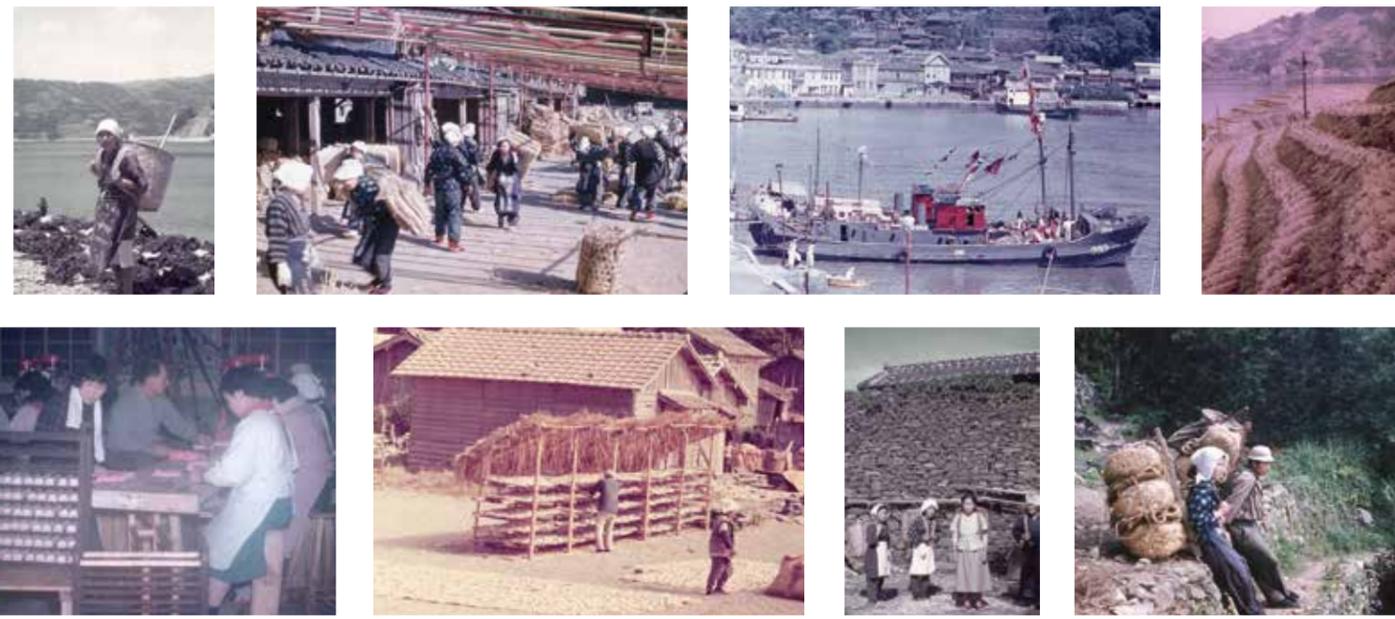
1月							2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	2	3	4	5	6	7	8
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	9	10	11	12	13	14	15
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	16	17	18	19	20	21	22
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	23	24	25	26	27	28	29	



愛媛県歴史文化博物館
MUSEUM of EHIME HISTORY and CULTURE
管理運営:指定管理者 いよつ総合企画
〒797-8511 愛媛県西予市宇和町卯之町4-11-2 電話:0894-62-6222
【ホームページ】 http://www.i-rekihaku.jp
●発行日 令和7年1月1日 ●編集/発行 愛媛県歴史文化博物館

愛媛県歴史文化博物館 No.120 歴博だより

Museum of EHIME History and Culture News



宇和海のくらしと景観

2025 2月15日(土) → 4月6日(日)

開館時間: 9:00 ~ 17:30 (入場は17:00まで)
休館日: 2月17日(月)、25日(火)、
3月4日(火)、10日(月)、17日(月)、24日(月)

特別展観覧料

大人(高校生以上): 550円(450円)
65歳以上: 350円(300円)
小・中学生: 350円(300円)
※()は20名以上の団体料金。
※他にお得な常設・特別展共通観覧券があります。



考古

りゅうせんよう
龍泉窯系青磁碗



この資料は、龍泉窯系で生産された青磁碗です。龍泉窯系は、現在の浙江省西南部の龍泉市にあった龍泉窯を中心とする中国最大の青磁窯群です。北宋時代末～南宋時代前期には盛んに海外へ製品を輸出しており、日本においても12世紀中頃から14世紀中頃にかけて多くの製品が輸入されました。

器の外面には、蓮の花が浮彫されています。花卉の輪郭線を彫った後、施釉した劃花文と呼ばれる文様です。彫跡に釉薬が溜まり、色が濃くなって花卉が浮き上がっているようにみえます。素地は白くて緻密な良質の陶土が使われ、釉薬は滑らかな青緑色をしています。

青磁の青は、鉄分が還元焰焼成されて生じた色です。鉄分を含む陶土や釉薬を使い、酸素の少ない高温の窯で焼くと、青い磁器になるのです。きれいな青色を出すためには、良質の陶土、釉薬の配合技術、高温にするための窯と燃料、温度をコントロールする技術が必要です。13世紀頃は龍泉窯系の最盛期とされている時期であり、この資料からは、その技術の高さや製品の質の良さが伺えます。

この資料が出土した余戸弘川遺跡は、松山平野の西南部に位置する遺跡です。13世紀から14世紀にかけての掘立柱建物や溝が確認されており、中世にはいくつかのグループが居住する集落だったとされています。写真の青磁のうち、上段左と下段中央の破片は、掘立柱建物内で発見されました。このことから、青磁碗が食器として使われていたことが考えられます。

(学芸員 三浦 彩)

※テーマ展「松山外環状道路と遺跡の調査 -松山平野西部の遺跡-」(3月23日まで)で展示しています。

出土地：余戸弘川遺跡(1次調査)
年代：13世紀初頭～13世紀前半
サイズ：下段中央 = 口縁部3.6cm、縦5.6cm、厚さ5mm
所蔵：愛媛県教育委員会

歴史

さいおんじきんひろざぞう
西園寺公広坐像



伊予西園寺氏の菩提寺光教寺(西予市宇和町)に伝わる公広の坐像です。西園寺氏は、藤原道長の叔父公季に始まる閑院流の公家で、伊予の知行国主となり、宇和荘を領有するなど、もともと伊予と深い関りがありました。南北朝時代には一族が下向し、室町・戦国時代に宇和郡で地域権力化します。最終的に豊臣の時代まで乱世を生き抜きますが、公広はその最後の当主になります。

戦国時代の領主に関わる肖像として、伊予でも肖像画は何点か確認されていますが、立体の木像となると極めて珍しいといえます。伊予西園寺氏の関連資料が少ない中で、本像は同氏に関する唯一の肖像資料でもあります。

ただし、成立は公広没後280年を経た幕末になります。厨子の墨書には、慶応3(1867)年に宇和盆地の有志が作らせ、本拠黒瀬城のあった黒瀬山に祠を建てて祀り黒瀬神社と称したが、昭和11(1936)年に社殿が老朽化したため、後西園寺公広卿記念会を設立し保管したとあります。

退色や破損もありますが、水色の直衣に白色らしき指貫を着用しているとみられ、よく見ると胸と肩には京都の西園寺本家以来の家紋である三つ巴が金色であしらわれています。すでに冠や笏は失われていますが、太刀を携え、あごひげを蓄える姿を見ることができます。完成時は、さぞ鮮やかで見事な坐像だったことでしょう。

天正15(1587)年に公広が没したことで歴史から姿を消した伊予西園寺氏ですが、地元では今なお関心が寄せられ続けています。本像からは、地域住民の時代を超えた旧領主への敬慕が伝わってきます。

(専門学芸員 山内 治男)

※テーマ展「西南四国の中世社会と公家」(1月26日まで)で展示しています。

年代：慶応3(1867)年
法量：高41.0cm×幅54.0cm×奥行30.0cm
所蔵：光教寺蔵・当館保管

テーマ展

西南四国の中世社会と公家

中世の西南四国には、西園寺氏・一条氏という公家の荘園が広がり、南北朝・室町時代以降には一族が下向して領主支配を展開、地域権力化していきました。伊予の西園寺氏は、西園寺公経が鎌倉時代に宇和荘を手に入れ、一族が南北朝時代に下向すると、宇和郡北部に分派し、戦国時代には宇和盆地を本拠に乱世を生き抜きます。土佐の一条氏は、鎌倉時代に九条家から幡多荘を譲渡され、荘園経営に行き詰ると、前関白の一条教房が幡多中村に下向し、土佐一条家を創設しました。

本展は、両者が西南四国に残した足跡を文献・考古資料をもとに辿ります。西南四国の中世社会の様子と変容を浮かび上がらせ、政治・経済・信仰の各方面において彼らが西南四国に何を求めたのかを探ります。

なお、本展は、高知県立歴史民俗資料館との資料調査をはじめとする相互協力により開催するものです。高知でも同様の展覧会が2025年2月28日(金)～5月6日(火)に開催されます。

2024年 2025年
12月17日(火)～1月26日(日)

- 会場：企画展示室 ●観覧料：常設展観覧料が必要です。
- 特別協力：高知県立歴史民俗資料館

国指定重要文化財 展示初公開
歯長寺縁起(歯長寺蔵・当館保管)



展示初公開
土佐一条家五代像(龍集寺蔵)



国指定重要文化財 展示初公開
歯長寺縁起(歯長寺蔵・当館保管)

主な展示資料

特別展

宇和海のくらしと景観

愛媛県の宇和海沿岸部では、近世にイワシ漁が盛んになるとともに、リアス海岸の急傾斜を段畑として切り開き、芋・麦を中心とする農業が定着しました。近代に入ると、かまぼこ・じゃこ天の水産加工業、はまち・鯛・真珠の養殖業、柑橘栽培が産業として発展しました。本展では宇和海のくらしと景観に目を向け、そこで営まれる生業について、歴史資料や民俗資料で紹介いたします。展示を通じて、重要な文化的景観「遊子水荷浦の段畑」、「宇和海狩浜の段畑と農漁村景観」、日本産業遺産「愛媛・南予の柑橘農業システム」にもなっている宇和海の魅力に迫ります。



戸島浦の漁業を描いた絵図
戸島浦海面漁場絵図面 明治初期
戸島歴史文化保存会蔵・当館保管



昭和28年の板図を基に復元したツリフネの模型
模型(ツリフネ)／当館蔵



イワン網などの漁法を描いた絵図
鯉網曳之図「漁業旧慣調」明治8～11年
愛媛県立図書館蔵

2025年
2月15日(土)～4月6日(日)

- 会場：企画展示室

テーマ展

おひなさま



御殿飾り(曲水の宴) 明治23(1890)年頃／当館蔵

春の訪れとともに、3月3日のおひなさまを飾る上巳(じょうし)の節句がめぐってきます。上巳の節句は、けがれを祓い人形を流す風習と平安時代の貴族の女兒の人形遊びとが結びついて始まったと考えられています。最初は簡素な人形でしたが、江戸時代に年中行事としてひなまつりが定着すると、次第に凝ったつくりになり、付属の人形も増えて華やかなものになっていきました。当館では今年もひなまつりを祝って、西条藩松平家の雛飾りをはじめ、次郎左衛門雛、古今雛、御殿飾り、明治天皇の変わり雛など、多彩なおひなさまの姿を紹介します。春のおだやかな一時、博物館の愛らしいおひなさまをどうぞお楽しみください。

2025年
2月15日(土)～4月3日(木)

- 会場：文書展示室 ●観覧料：常設展観覧料が必要です。